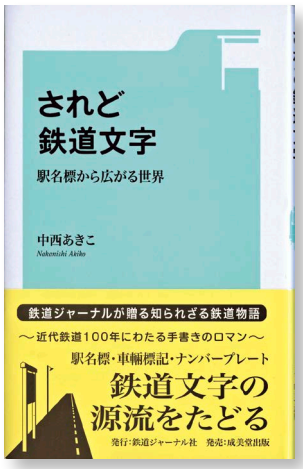
されど鉄道文字

駅名標から広がる世界

中西あきこ 著

駅を歩いているとさまざまな文字が目にとまる。駅名標、発車標、形式・番号など車両標記、SLのナンバープレート…。見比べると、それらの文字はそれぞれ一定の規則に従って書かれていることに気づく。国鉄の駅名標の文字書体「すみ丸ゴシック」は、当時、職人の手書きに頼っていたことに始まる。車両に書かれた文字も、実は明治末年に制定された様式に準拠している。
およそ百年、駅や車輛に掲げられた文字や標記はどのようにして書かれてきたのか。まつわるエピソードをたどりながら、文字に宿る独特のかたちの知られざる過去を通じて広がる鉄道文字の世界。
その源流をたずね、当時を知る関係者にあたって、文字書体の形成と知られざる字書きの技、今日までの移り変わりを丹念に追ったロマンあふれる異色の鉄道書。



本書の内容

【はじめに】駅名標は未知の土地への案内人

鉄道書体すみ丸ゴシック
国鉄の掲示規程にのった駅名標の「角ゴシックの隅を丸めた書体」発祥の理由は。

現代に生きる「すみ丸ゴシック」
字書きの現場でこだわりと切磋琢磨が生んだ「佐野書体」の真実とその後。

ホーロー引きの駅名標を作る
国鉄指定書体を使い実物と同じ仕様、製法で作った「されど鉄道文字」看板。

車輛の標記
明治末年に制定されたカナと数字が今日に生きる。独特の字体と字書きの技法。

ナンバープレートと文字
蒸気機関車の前面を飾る番号板にも時代を映す差異。文字の形を指示する図面へとさかのぼる。

営団地下鉄のサイン文字
電車の窓から一瞬で判読しやすい文字とは。わずかに横長のゴシック4550書体の誕生まで。

ロンドン地下鉄とジョンストン・サンズのように
ロンドン地下鉄で100年にわたって使い続けられている文字書体。

【コラム】鳥居形の駅名標／「照明」は駅の電気掲示器から／行先標のデザイン／文字をたずねる

発行：鉄道ジャーナル社
発売：成美堂出版
定価　本体800円 ＋税
新書判（縦173mm×横108mm）
312ページ（本文296ページ／口絵16ページ）
ISBN 978-4-415-32089-2

JR東海御殿場線富士岡駅。
駅名標のひらがなは、国鉄時代の「すみ丸ゴシック」を基にしている。

好評発売中!!　全国書店でお求めください。定価 本体800円 ＋税　新書判 312ページ

発行：鉄道ジャーナル社　発売：成美堂出版（お問い合わせ：電話（03）5206-8155）
〒162-8445　東京都新宿区新小川町1-7　FAX. 03-5206-8159